

民報 ゆうばり

夕張労連 “旗びらき2014”

「アベノミクス」安倍政権の暴走ストップを！

昨年7月の参議院選挙で自公政権が議席の多数をしめ、安倍政権の暴走が、続くなかで開かれ、この安倍政権にたいして、先週の沖縄名護市長選挙は明確な回



は、今年の旗開きは、議長の前野勇治さんは、今年7月の参議院選挙で自公政権が議席の多数をしめ、安倍政権の暴走が、続くなかで開かれ、この安倍政権にたいして、先週の沖縄名護市長選挙は明確な回

は、今年の旗開きは、議長の前野勇治さんは、今年7月の参議院選挙で自公政権が議席の多数をしめ、安倍政権の暴走が、続くなかで開かれ、この安倍政権にたいして、先週の沖縄名護市長選挙は明確な回

は、今年の旗開きは、議長の前野勇治さんは、今年7月の参議院選挙で自公政権が議席の多数をしめ、安倍政権の暴走が、続くなかで開かれ、この安倍政権にたいして、先週の沖縄名護市長選挙は明確な回

は、今年の旗開きは、議長の前野勇治さんは、今年7月の参議院選挙で自公政権が議席の多数をしめ、安倍政権の暴走が、続くなかで開かれ、この安倍政権にたいして、先週の沖縄名護市長選挙は明確な回

1月26日、平和はまなす会館において夕張労連の旗びらきが行われました。会場には各加盟団体の組合旗やたたかいたのぼり旗などが掲げられ、たたかいたの新しい年をむかえる意気込みがみなぎっていました。

答をつきつけました。安倍政権の「お金で人心を奪う」露骨なやりかたに毅然とした態度をみせつけ、沖縄県民そして国民の怒りがどれほど大きいものかを示す結果となりました。今年、さらには「今年運動がおこり、一点共闘の可能性が広がっている。この情勢の中で大きな前進を勝ち取るために団結してたたかおう」と訴えました。

くまがい市議、政府交渉を報告 来賓あいさつした共産党夕張市委員長・市議のくまがい桂子さんは、弱者切り捨ての自公政治が

賃上げこそデフレ脱却の道 道労連から来賓として出席した、元道労連議長山口康夫さんは「2014春闘をめぐる情勢と課題」と題したレジュメをもとにわかりやすく話しました。

安倍政権は、憲法9条2項を変えて「国防軍」をつくることを公言している。その上、「特定秘密保護法」を強行可決したり、沖縄辺野古への新基地建設に向けてお金やどう喝的な権力をむき出しにしたりしています。

道内では151事業所で法令違反 終わりに、夕張労連事務局長熊谷泰昌さんから「ブラック企業診断書」や北海道で食品加工、コンビニ、訪問介護など151事業所で法令違反（長時間労働や残業代不払い）の実態が報告されました。これからの若い労働者と連携してねばり強く運動を進めていく決意を述べました。

市医療保健対策協議会 拡大会議開催

「町内会長など意見 社会医療法人制度を活用」

1月22日、市民研修センターにおいて、市立診療所の移転問題や、地域医療の在り方について、協議を続けてきた市医療保健対策協議会の拡大会議が町内会や患者の代表など約20名の参加で開催されました。



市立診療所の在り方について一定の見解が提示されました。



この会議は一昨年の3月に行われて以来の2回目、この間、対策協議会の中で検討がすすめる

それによると、「移転時期は2017年供用開始が理想であるが、現在の市内の医療体制や人口動態

を勘案し、10年先送りが現実的と判断した。また、市立診療所がへき地診療所の指定を受けて、社会医療法人制度を活用し運営することの妥当性を選択した」と報告されました。これに対し出席者

から「診療所ができる2027年ごろは、さらに人口が減少する可能性があり、現在の市立診療所より利用しずらくなる心配はないか。予測では六千人位の町になると聞くがどのような診療所になるか示してほしい」との要望が出されました。

また、市内の医療機関の連携について「市が運営を託している夕張希望の杜が夕張市医師会に入っていない。市が調整役となって連携を密にしてほしい」との要望も出されました。

年金者組合ダンス会

歌とダンスで新年会

「楽しみ7分・活動3分」を合言葉に、趣味のサークル活動を楽しみにしているダンス会は、1月24日、参加者22名で新年会を兼ねた例会を開きました。

ダンス会は毎月2回の例会を開き、初心者から熟練の会員まで教えあいながら楽しんでいるとのこと。ある会員は「幅広い参加者で構成され、仲間を大切にしたいやりの長続きする要因」と話していました。

年金者組合の執行委員でもあるくまがい桂子市議が新年の挨拶に駆けつけ

「これからも、みなさんの会がますます楽しく、さらに夕張再建がよいほうに向かうよう力を合わせましょう」と挨拶しました。



日本共産党
道国政相談室長

森 つねと

「かけある記」

「ブラック企業」根絶へ力を合わせましょう

この間は、連日のように党内外の「新春のつどい」「新年交礼会」に参加するため、道内の各地にお伺いしています。温かく迎え入れていただいたみなさん、ありがとうございます。

空知のあるまちへ行ったときのことです。落ち着いた雰囲気のお母さんが私に声をかけてくれました。「息子も同じくらい。三十五歳ですよ」「生きていければね」数年前、息子さんは仕事の悩みから心の病になり、自ら命を絶ったというのです。いったいどんな働き方をしていたのか。いま、若者をはじめ労働者を「使いつぶし」「使い捨て」にする「ブラック企業」が道内にも広がっています。

道労働局が昨年九月、一九七事業所を対象に行った「ブラック企業調査」では、七十七%で法令違反が発覚。違法な時間外労働や残業代の未払いが全国平均より多いことがわかりました。これらが、氷山の一角に過ぎないことは明らかです。

党道委員会と民青同盟は「働く人の雇用・生活実態調査」を始めました。党道委員会のホームページでも行っていますので、みなさんのご協力をお願いいたします。

三月十五日（土）には党と民青同盟の共催で「ブラック企業・雇用問題を考えるシンポジウム」（午後六時より札幌「かでの2・7」大会議室）を開催します。これらの取り組みを通じて、何としても「ブラック企業規制法案」を成立させたいと思います。